

---

# 道内市町村における 地方創生の主な取組事例

---

平成29年6月  
北海道

# 成果が芽生えつつある市町村プロジェクト

## 取組事例④

特色ある学校づくりによる地域の活性化と人の呼び込み(音威子府村、三笠市)

## 取組事例⑤

農産物のブランド化を通じた交流人口の拡大やブランド力を活かした経営基盤強化等による人口流出の抑制(美瑛町、共和町)

## 取組事例①

リゾート資源を活用した雇用拡大や移住・定住の促進(ニセコ町、留寿都村、赤井川村)

## 取組事例②

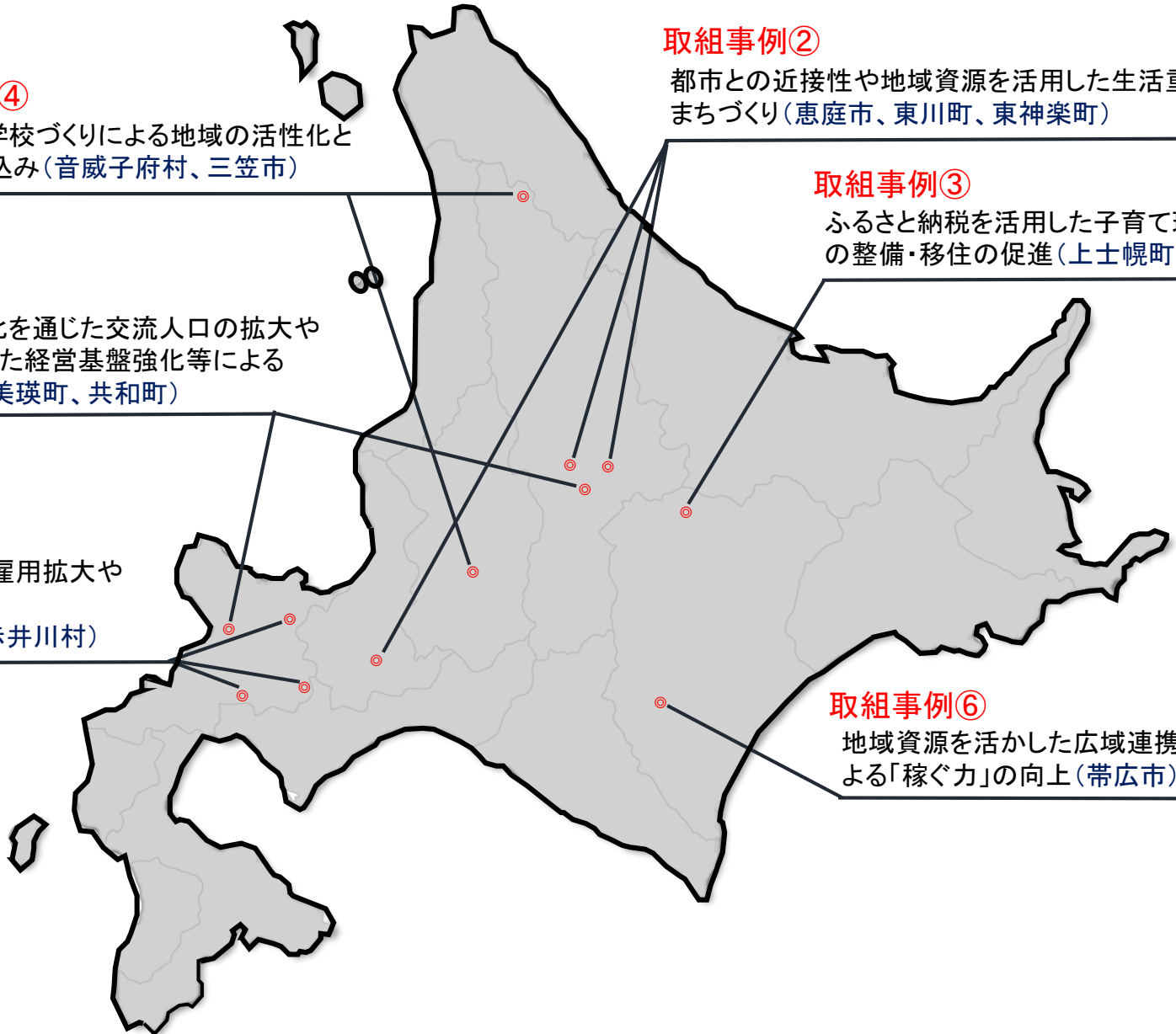
都市との近接性や地域資源を活用した生活重視のまちづくり(恵庭市、東川町、東神楽町)

## 取組事例③

ふるさと納税を活用した子育て環境の整備・移住の促進(上士幌町)

## 取組事例⑥

地域資源を活かした広域連携による「稼ぐ力」の向上(帯広市)



# 取組事例① リゾート資源を活用した雇用拡大や移住・定住の促進

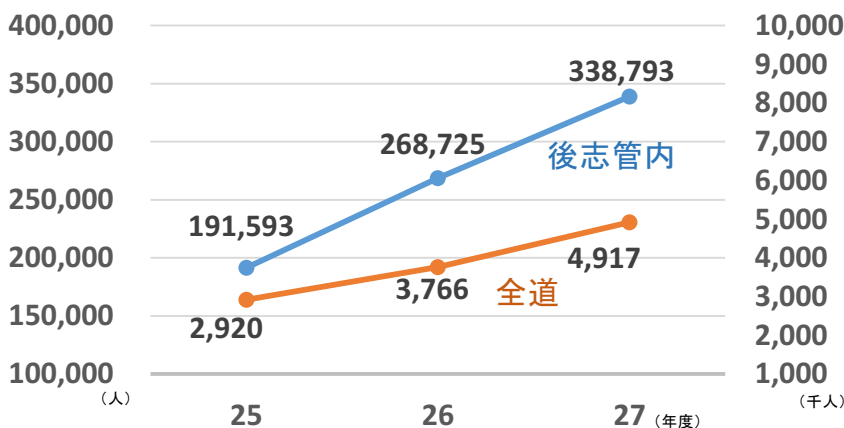
(ニセコ町、留寿都村、赤井川村)

ニセコ町をはじめとする後志地域のリゾートエリアでは、ホテルなどリゾート施設への投資の呼び込み、雇用促進、交流人口の拡大などの施策により、転入超過への転換や転出超過の縮小が見られる。

## 人口動向

市町村名	H28転入	H28転出	転入超過	H27転入超過
ニセコ町 (ニセコリゾート)	293人	276人	17人 ←	-13人
留寿都村 (ルスツリゾート)	124人	129人	-5人 ←	-22人
赤井川村 (キロリゾート)	71人	66人	5人 ←	-2人

## 外国人宿泊者数の推移



後志管内の外国人宿泊者数は近年大幅な増加傾向にある

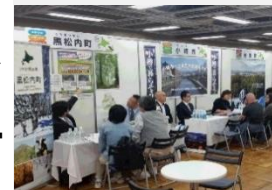
## 取組事例

### 雇用拡大や移住・定住の促進

#### しりべし「まち・ひと・しごと」マッチングプラン

- 夏季就業希望者へ求人情報を紹介する「就業フェア」の開催
- 「北海道移住フェア（東京）」での後志管内市町村のPR
- 外国人の就業を促進するため、英語対応可能な相談員の配置など
- 20名（うち外国人6名）の就労先が決定し、移住に結びつく

就業フェアにおいて外国人の就労と居住の相談に応じる倶知安町の農協職員。

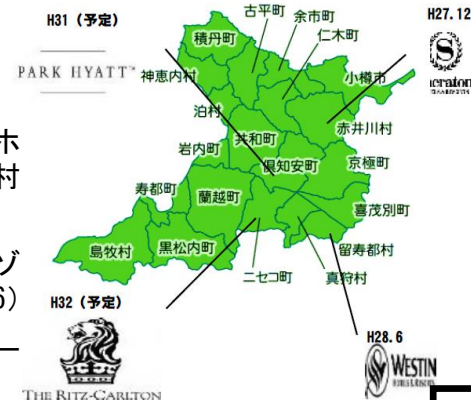


「北海道移住フェア（東京）」において移住希望者にPRを行う後志管内市町村職員

#### 観光客増加によるリゾート施設への投資の呼び込み

- 旅行博への出店や旅行会社との商談会の開催
- 観光関係者などへの外国語対応研修
- Wi-Fiスポットの整備など
- 米大手ホテルチェーンのスターウッドホテル&リゾートが、赤井川村と留寿都村でリゾートホテルを開業（H27.12）
- 同チェーンが「ウェスティンルスツリゾート（留寿都村）」を全面改装（H28.6）
- 今後もニセコ町や倶知安町で大手リゾートホテルが開業予定

国際リゾートホテルの開業が相次ぐ後志地域



# 取組事例② 都市との近接性や地域資源を活用した生活重視のまちづくり (恵庭市、東川町、東神楽町)

都市に隣接するという地理特性を活かしながら、恵庭市では市民主導による花のまちづくりの推進、東川町では国際交流の推進、東神楽町では教育や子育て環境の充実などの施策により、人口増加・転入超過が続いている。

## 【恵庭市】

### 人口動向

H28転入	H28転出	H28転入超過	H27転入超過
3,227人	2,938人	289人	268人

### 取組事例

「花のまちづくり」、子育て環境の充実を活かした移住・定住の促進

○かねてから取り組んできた「花のまちづくり」を活かした移住定住促進支援策としてガーデニングで知られる恵み野地区に住宅団地「ノースガーデン恵み野」を整備（H28年7月から売り出し、H29年3月時点で82区画中51区画が予約または購入）

○次世代を担う子ども達を地域が育む「地育」を基本理念とする、生涯学習施設「かしわのもり」がH28年9月にオープン、多世代交流機能を担う



移住・定住促進支援策、子育て環境の整備等により、人口(住基台帳ベース)は3年連続で増加(H25~H28)

## 【東川町】

### 人口動向

H28転入	H28転出	H28転入超過	H27転入超過
374人	312人	62人	72人

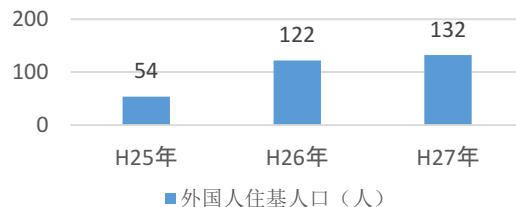
### 取組事例

国際交流をはじめとする多様な交流の推進

○公立として全国初となる町立東川日本語学校を開校し、日本語や日本文化の研修を実施(H28:389名)

台湾、タイ、中国、韓国、ベトナムに事務所を設置し留学生を誘致

○0歳から15歳までの子どもの入院・通院代を全額助成



外国人住民登録者を含む人口の増(H27/H22国調人口対比で3.2%増)

## 【東神楽町】

### 人口動向

H28転入	H28転出	H28転入超過	H27転入超過
437人	397人	40人	168人

### 取組事例

「子育てNo.1のまち」の推進

○東神楽小学校が文部科学省「スーパー食育スクール事業」に道内で唯一指定され、食育の取組を推進

○多世代交流センターに「放課後子ども教室」や「小規模保育園」を開設

○地域、学校、家庭の連携により教育力の向上を図るためコミュニティスクールを町内全校に導入

子育て環境の充実による人口の増加(H27/H22国調人口対比で10.1%増、15歳未満人口割合が全道一(15.7%))



# 取組事例③ ふるさと納税を活用した子育て環境の整備・移住の促進 (上士幌町)

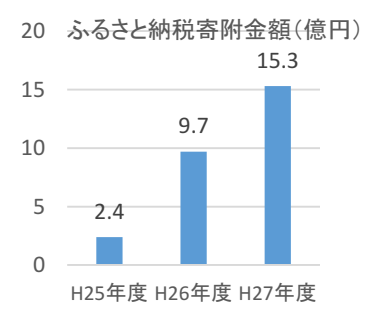
上士幌町では、ふるさと納税を活用した子育て支援の充実、移住・定住の促進などの施策により、転入超過の拡大が見られる。

## 人口動向

市町村	H28転入	H28転出	H28転入超過	H27転入超過
上士幌町	257人	191人	66人	4人

## ふるさと納税の状況

- 平成25年度からふるさと納税寄附金額が全道一
- 平成26年度には十勝ナイタイ和牛など地元返礼品が全国メディア等に紹介され、寄附金額・件数ともに大幅に伸び全国3位
- 平成27年度には寄附金額が初の15億円を突破(全道1位、全国15位)平成28年度は21億円を突破
- ふるさと納税の寄附金を子育て・少子化対策に活用する基金条例を制定



上士幌町ふるさと納税・子育て・少子化対策夢基金

## 取組事例

ふるさと納税を活用した子育て支援と移住を推進

### ○ふるさと納税・子育て少子化対策夢基金を活用した取組

- ・上士幌認定子ども園の保育料を10年間無料化
- ・幼児期からの異文化交流を図るため外国人指導講師を同園に配置
- ・併設する園児の体験学習のための「ほろんの森」を整備



### ○移住検討している方を対象とした生活体験のための住宅を整備、移住体験モニターを積極的に実施



### ○東京で、ふるさと納税の寄附者を招いたイベントを開催

[H28 約2,000人来場] 仕事・暮らし相談やアクティビティの移住相談など、新たな移住・定住を促進する取組を実施



[相談件数 H22:129件 ⇒ H27:232件]

全道一のふるさと納税寄附額(H27実績:15億円超。全国15位)を活用した子育て支援策の充実等による転入超過の拡大

# 取組事例④ 特色ある学校づくりによる地域の活性化・人の呼び込み

(音威子府村、三笠市)

音威子府村や三笠市では、高校を核とした地域の活性化や交流人口の拡大などの施策により、転入超過への転換や転出超過の縮小が見られる。

## 人口動向

市町村	H28転入	H28転出	転入超過	H27転入超過
音威子府村	92人	85人	7人 ←	-14人
三笠市	323人	410人	-87人 ←	-118人

## 音威子府村

**取組事例** 道内唯一の工芸高校に全国から生徒が集まる

### おといねっぷ美術工芸高等学校(村立高校)

- 1学年40名、全校生徒115名  
(うち道外16名)  
全日制工芸科(美術コース、工芸コース)  
全寮制



- 音威子府村は、人口約790名の北海道で一番人口の少ない村であり、高校生が人口の1割以上を占めることから、村の創生総合戦略において高校を核とした取組を推進

- 地方創生交付金を活用し、近隣の幌加内、剣淵の両町立高校、下川商業高校と連携して、札幌市での学校紹介入学案内事業を実施

- 卒業生の地元定着のため、村では、卒業生を村に招聘し滞在しながら芸術作品の制作等を行うアートインレジデンス事業を実施  
→卒業生のUターンが増加中

## 三笠市

**取組事例** 食に特化した食物調理科に全道から生徒が集まる

### 三笠高等学校(市立高校)

- 1学年40名、全校生徒120名  
全日制食物調理科  
(調理師コース、製菓コース)



- 三笠市は、生徒数の減少により道立三笠高校が閉校するのを受け、食のスペシャリストを育成する市立高校として再スタートさせ、全道から学生を募集  
市外から多くの生徒が入学



- 全道各地から入学した生徒は、イベントなどで料理の提供やコンビニとの共同商品開発を実施

- 全国スイーツ甲子園で優勝するなど、料理やスイーツのコンクールでも優秀な成績を修めている

- 三笠市では、高校を核として、地元食材を活用した料理やスイーツを提供する「高校生レストラン」の設置を決定、平成30年夏にオープン予定



# 取組事例⑤ 1次産業と観光資源を組み合わせた交流人口の拡大 (美瑛町、共和町)

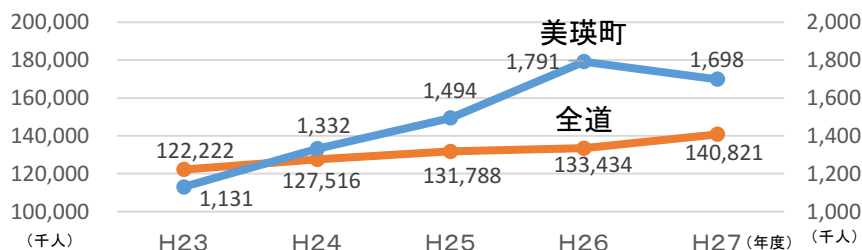
美瑛町では、企業との連携・協力等による農畜産物のブランド化を通じた交流人口の拡大、共和町では、農産物のブランド力を活かした農業経営基盤の強化等により、転入超過への転換や人口流出の抑制が図られている。

## 【美瑛町】

### 人口動向

H28転入	H28転出	H28転入超過	H27転入超過
287人	283人	4人	-65人

### 美瑛町と全道の観光入り込み客数の推移



## 取組事例 企業とのコラボによる地域ブランディング

### 企業と連携した地域課題の解決に向けた取組

- 平成25年に美瑛町とヤファー(株)と相互連携協定を締結、町内の廃校を改修した研修施設を社員研修やワークショップを実施する施設として活用
- ヤファーをはじめ、アサヒビールや日本郵便など異業種5社と美瑛町職員・美瑛町内関係機関職員が町の「地域課題解決プロジェクト」に取り組む
- 平成28年にはヤファーから職員を美瑛町へ派遣してもらい、民間の知恵を活かしてまちづくりや美瑛ブランドを展開



ヤファーオンラインショップ

### アンテナショップ「美瑛選果」による農産物のブランド化

- JAびえいは、新千歳空港や東京有楽町に農産物や美瑛産小麦を使ったパンなどの加工品を販売するアンテナショップをオープン



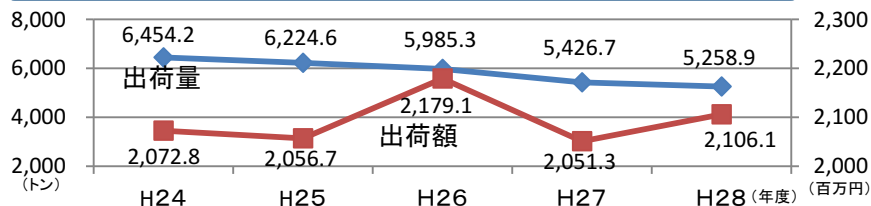
美瑛選果 東京有楽町店

## 【共和町】

### 人口動向

H28転入	H28転出	H28転入超過	H27転入超過
223人	284人	-61人	-110人

### 「らいでんメロン」の出荷量・出荷額の推移



## 取組事例 ブランド力を活かした農業経営基盤の強化等

### 農産物における「らいでん」ブランドの確立

- 厳しい基準と最新の機械により高品質を維持。特にスイカやメロンは全国的に評価を受けており、「稼ぐ農業」の推進役を果たしている
- 「らいでんメロン」の出荷量は、北海道一を誇る



らいでんスイカ らいでんメロン

### 「岩宇まちづくり連携協議会」による地域連携ビジョンの推進

- 周辺3町村(岩内町、泊村、神恵内村)とともに、「北海道型地域自立圏」の形成に向け、連携した取組を展開
- 広域観光の推進や地場産品の振興、人材育成などに取り組んでおり、平成28年度は「岩宇」の認知度向上や魅力発信に向けたロゴマークを決定



岩宇地域 ロゴマーク

# 取組事例⑥ 広域連携による地域資源を活かした「稼ぐ力」の向上 (帯広市)

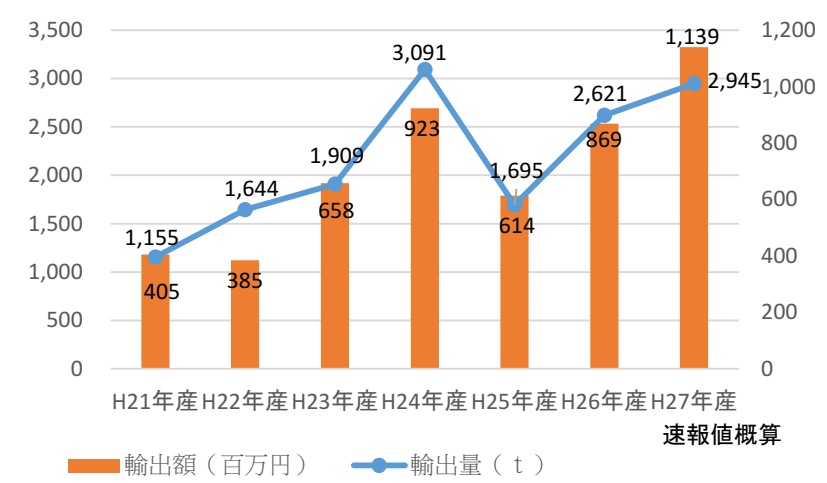
帯広市では、管内町村や産学官金の連携により、「長いも」をはじめ農畜産物の輸出の拡大や、創業・起業の促進に取り組み、“地域の稼ぐ力”を高め、人口の堅調な推移につなげている。

## 人口動向

市町村	H28転入	H28転出	転入超過	H27転入超過
帯広市	7,396人	7,390人	6人	27人

道内地方中核市で唯一の転入超過

## 長いも輸出量・額の推移



台湾に加え、米国、東南アジアへ輸出拡大  
平成27年産の輸出額は11億円を突破  
(過去最高)

## 取組事例 地域の稼ぐ力を向上

- 【十勝川西長いもの輸出】
  - 帯広市川西農協を中心に周辺8農協で産地の広域化を図り、安定供給とブランド化を実現
  - 国内市場での需給状況を見ながら高品質を武器に貿易商社と連携し、台湾に加え、米国、マレーシア、シンガポールなどへ輸出を拡大



## 【十勝・イノベーション・エコシステムの構築による事業創発】

- 十勝の新たな「稼ぐ力」を創出するため、地方創生交付金を活用し、産学官金が連携した体制により、起業候補者の発掘、育成、新たな事業構想の創発、事業計画のブラッシュアップ及び事業化を一貫して支援し、創業・起業に結びつける「十勝・イノベーション・エコシステム」の構築に向け、取り組みをスタート。
- 平成27～28年度で、20件の事業構想が生まれ、6件で事業化(新会社設立含む)に至る。

